

「桜の季節(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

東京にはサクラの名所が数多くあるが、私の自宅や通勤路、それに職場にもサクラの樹はたくさんある。修了式が終わった翌週、もうサクラが美しく咲きだしていた。



自宅から一番近いサクラは、窪町東公園のサクラと、この並木道だろう。茗荷谷駅前の交番の道を入ったところだ。湯立坂の入口にあたる道だ。



この交差点の突き当りには、かつて「福屋文具店」というお店があった。骨董的な価値のある古いお店で、建物が確かに傾いていた。文具店というよりは、雑貨屋さんで、ほとんど何でも売っていたので、私は理科の教材をよく「仕入れて」いた。実験中にマッチが足りなくなって、「理科係さん、福屋さんで買ってきて！」と千円札を持たせて走らせたこともある。今はそんなことはできなくなったが、30年前はおおらかな時代だった。現在その跡地はローソンになっている。



ドミ(マンション)の前から、教育の森公園の歩道に入ると、見事なサクラ並木になっている。私はここで立ち止まって、通勤中に絵を描くことにしている。自転車の荷台が、ちょうどよい机になるのだ。左に見える建物は「窪町小学校」だ。たつては、古い校舎が春日通に面して建っていたのだが、公園側に移転し、春日通側が全天候の校庭になった。



校舎の裏側がサクラ並木になっている。ここには珍しい道路標識がある。車の運転手に注意を促しているはずなのだが、車が警笛を鳴らして、子どもを蹴散らしているように見える。他では見かけない標識だ。